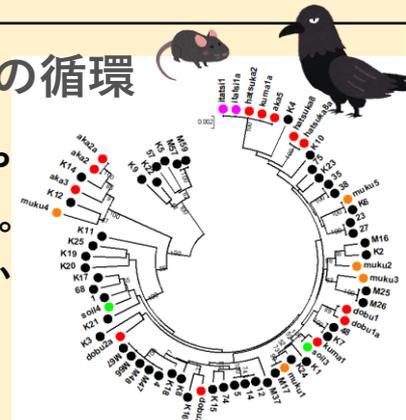


## 1 生体と環境での *Clostridium perfringens* (Cp: ウエルシュ菌) の循環

Cpは芽胞形成菌であり、環境中での生残能力が高い環境細菌である。同時に、人や動物の腸内細菌の一種でもあり、かつ人で食中毒、家畜や家禽で腸炎の原因にもなる。

つまり、Cpは環境と生体の間を循環すると推察している。この循環の詳細を明らかにして、人の食中毒や、農場での家畜や家禽の腸炎の発症を予防することは出来ないだろうか？



➡ そこで、留鳥、野生ネズミ、動物園動物で、ウエルシュ菌の保有状況を調べ、分離菌株の性状（毒素遺伝子の保有など）をPCRで分析し、MLST法で系統解析を行っている。

## 2 野鳥の糞の腸内フローラ解析を利用した環境モニタリングシステムの開発

もしも環境変化にリンクして野鳥の腸内フローラが変動するならば、環境モニタリングに応用して、早期に環境変化を予見し、生態系への影響や農業への打撃、健康被害を最小限に抑えることが出来ないだろうか？ そのような環境モニタリングシステムの開発を目指している。



➡ そこでまず、野鳥の糞を新鮮な状態で種別に採取し、抽出したDNAで16S rRNAアンプリコンシーケンス解析を行い、野鳥の種別に腸内フローラのデータベースを整理している。